

『室内での事故』

外出の際、子どもの安全について気をつけるのはもちろんですが、乳幼児の事故で意外と多い場所が、家のリビングです。

乳幼児期は、昨日できなかったことが今日できるようになるということがあります。例えば、「まだ大丈夫」と思いソファーに寝せていたら寝返りをして下に落ちてしまったり、急にハイハイやつかまり立ちができるようになり、危ないところに移動する場合があります。

●子どもの手が届くところに危険物を置かない

子どもがつかまり立ちをするようになったら、タバコ、薬、口紅、ボタン電池、洗剤など、危険性がある物は、手の届かない所に置きましょう。

また、転んだ時にテーブルなどの角で頭や体をぶつけることもあるため、ケガをしないように家具の角に布などを巻きつけたり貼ったりして角をなくしましょう。

●おもちゃなどの管理

赤ちゃんの死亡原因で多いのは、誤飲です。トイレットペーパーの芯の中を通る物は、子どもの口に入り飲み込むので危険です。きょうだいが遊んでいるおもちゃを赤ちゃんが口に入れてしまうことがあるため、片づける時はおもちゃのパーツの数が全部そろっているか確認してください。洋服についているボタン、スパンコール、ビーズなどにも気をつけましょう。

●暖かい飲食物の管理

「少しの時間だから大丈夫」と思ってテーブルに置くと、子どもが触ってこぼしてしまいやけどをすることがあるので気をつけてください。

●#8000番をご存知ですか？

この番号は、福岡県小児救急電話相談の番号です。夜間や休日の、子どもの急な病気やけがなどの相談について、看護師または小児科医がアドバイスします。前もって番号登録をしておきましょう。

元気づくり課子育て支援センター

☎ (919) 6001